おーい！くじらぐも

Vol.44　2025 年（令和 7 年）2 月号

発行人：(福) 健翔会　相談支援センターくじらぐも
所在地：埼玉県行田市小見 1141 番地 1
TEL：048-580-3634　FAX：048-554-8814
MAIL：kujiragumo@kenshokai.net
発行責任者：くじらぐも　センター長　細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第 4 号事業所です。

未就学児への福祉サービスの情報提供や関係機関へ繋ぐ役目も承ります。お気軽にお問い合わせください。

久遠（くおん）チョコレートをご存じでしょうか。全国 60 拠点・40 店舗で働く従業員約 700 人の 6 割近くが障害のある人たち。多様な人々が作るチョコレートは、有名百貨店に認められるほど高い品質を誇ります。

こちらが代名詞的存在の「久遠テリーヌチョコレート」。カジュアルなハンドメイドチョコレートで、セオリーにとらわれない独自製法。
私も食べましたが新触感な感覚です。

なぜチョコレートなのか？正しく材料を使えば誰でもおいしいものが作れるから。また、工賃月 1 万円が正当なのか？そうではなく、「働けばちゃんとお金がもらえる」そんなシンプルな世の中になってほしいとの願いです。

『同性介助について　～忘れてはいけないその思い～』

先日、テレビで同性介助について取り上げていました。私は今から約 20 数年前、26 歳のときに、福祉の世界に入りました。最初は、重度心身障害者（児）の施設で働き始め、次に高齢者の施設で働き、認知症の方の介護にも携わりました。

素人から福祉の世界に入った私でさえも「同性介助の重要性」「同性介助は常識中の常識」という認識がありました。高齢者の介護に携わったとき、異性介助が常でした。カルチャーショックでした。初めて、「おばあちゃん」の入浴介助を上司から命じられたとき、正直戸惑いました。職員の手のなさや、その環境や空気感で、おずおずと異性介助の担い手になりました。慣れとは怖いもので、適応するのには、そう時間はかかりませんでした。男性職員しかいないので、その日のおばあちゃんの入浴はなし、逆に女性職員しかいないから、その日のおじいちゃんの入浴はなしとはいきません。高齢者も、異性の介助に抵抗を示す方はほとんどいなかった気がします。若い職員に声を掛けられて、喜んでお風呂場に向かうおばあちゃんの姿は微笑ましいものがあり、「同性介助の原則に反する！」なんて怒りの感情が湧くこともなく、次第に、異性介助が日常となり、同性介助の原則は過去形であり、異郷の地のルールとなっていきました。

私も経験を重ね、もちろん同性介助の原則を自分のなかでルールとしています。しかし、現場では例外があることも知っています。ご利用者の尊厳を守るためにも、セクシャルハラスメントのリスク回避のためにも、同性介助の原則は徹底する必要がありますが、この原則がどれほど大切なことか、ご利用者から教わった精神が、福祉の現場を 20 年ほどかけて通過した私のなかで、希薄化していることも感じています。「そうとばかりも言ってられない」現実があることも、現場で働くことで知ることになりました。しかし、ご利用者の想いは忘れたくないし、忘れるべきではないと思っています。そこには、想いの闘いの歴史があり、痛みの記憶があるからです。時折思い出し、若い職員に伝えていきたいと思います。

＜2 月のトピックス＞

ドラッグストアで買物をしているときです。レジの列に並んでいたときに、前にいた高齢者が列を外れて商品を取っていたので、列を前に詰めた途端・・・。「並んでいるじゃないか！！」と大きな声で怒鳴りつけてきました。今でいうキレるというのでしょうか。これで私が頭に来てもしょうがないので、一応謝りましたが。ここで感じたことは「言い方！」。頭ごなしに言われれば誰でも腹が立ちます。「すみません、並んでいたのですが」などと言われれば、「はい、そうですか」で済む話なのですが。悔しかったので、この日は大好物のものを買って帰りました。（笑）